

# 悲しく苦しい思いをしている動物が多すぎます。 犬・猫・ペットの問題は彼ら動物の責任ではなく、 人間の側の問題です。

いじめ、虐待、自殺など殺伐としたニュースが日常茶飯事だった今年の世相を象徴する漢字は“命”でした。人間の命さえ粗末に扱われるこのごろ物言えぬ動物たちの命は風前の灯。ペットショップにはいつでも子犬猫があふれている反面、札幌市だけでも年間 3000 頭以上の犬猫が致死処分されています。

今回のワンニャン講座でみかさワンニャンボランティア代表伊佐治さんにお話をいただきました。たった 3 人で糞拾いからはじめ 5 年間でおおよそ 260 頭あまりの命を救っています。子犬猫でさえ里親を見つけるのは至難の業なのに、なつき難い大人の犬猫の里親を見つけるのは神業のようなもの、伊佐治さんは奇跡が起きるといいます。しかしどれだけ頑張っても捨てられる子は増えるばかり。当たり前なのに忘れられている、全ての命は“重い”ということをお大人は再認識し、子どもたちにしっかりと伝えていかねばならないと思います。

## らびかの 屋根裏部屋

本田 憲司(事務局長)

赤平市街地で、生涯学習の灯を消さぬように……

ご存知のように、来年 3 月いっぱい赤平市公民館が休館することになりました。指定管理者として、当支援センターが管理運営を行ってきましたが、我々としりまして、休館という現実を前に、とても寂しい気持ちでいっぱいです。

さて、私は、公民館が大好きです。学校には、子どもたちの笑顔があふれています。公民館には、子どもだけでなく、大人、お年寄りに至る、幅広い世代の皆さんが集い、よりたくさんの笑顔が、そしてよりたくさんのふれあいが生まれる、とても温かな場所だと思います。

現在、市内中心部に「新・支援センター」の開設を目指して、準備会での協議に入っております。正直なところ、クリアしなければならない課題は山ほどあります。

それを考えるとくじけてしまいそうにもなりますが、赤平の市街地に笑顔あふれる集いの場を新たに創出するために、また、今まで公民館講座を企画推進してきた経験と実績生かし、新センターを中心として、市民による市民のための生涯学習講座を開催していきたいと、新年を前に決意を新たにしているところであります。

<発行>NPO法人赤平市民活動支援センター 〒079-1136 赤平市本町3丁目1番8(赤平市公民館内) TEL・FAX 32-3888

<発行責任者・表紙>新出郁子(広報部チーフ) <編集者>佐藤智子(広報部)・本田憲司(広報部)・川崎 哲(NPO職員)

E-mail: rabika@mocha.ocn.ne.jp URL: http://rabika.sakura.ne.jp/